

「信書便管理者は、通信の秘密を守り、確実な配達を行う上で不可欠な実務リーダー。協会として管理者講習を全国で積極的に開き、中長期的に受講修了者千人を目指したい」と話す



のは、信書便事業者協会伊東博会長)で研修事業を担当する高野瀬明郎監事(45、ヒューモニー)。

生命保険会社で国際金融や経営企画業務を担当した後、大手会計事務所系コン

管理者講習 充実を図る

信書便事業者協会監事

高野瀬 明郎氏

サルディング会社などを経て2014年7月、特定信書便事業3号役務(電報)を手掛けるヒューモニー(東京都中央区)の社長に就任。15年2月からは同協会の監事に就き、主に研修事業を担当している。

15年度は、信書便管理者講習を全国8カ所で開催し、218人が修了証を受けた。16年度は10カ所で開催する計画で、受講修了者を増やすとともに内容の一層の充実を図る。

「講師には総務省総合通信局の監理官に加え、新た

運転者教育サポート

に信書便事業者の社員を認定講師として選任している。また、今年から総合通信局の検査時に、書類に信書便事業者協会の管理者講習の受講履歴を記入する項目ができた。官民が連携して受講を促進することも大切」

同協会の研修は13、14年度は主に経営者向け、15年度からは管理者向けの内容となっている。今後は、管理者が行うドライバー教育のサポートも行いたい考えだ。

「管理者が現場でドライ

バーを指導・教育する際に使うテキストや資料を提供できれば、と考えている。信書の周知と認知度向上には、地道な教育を定期的に行



続けることが重要。配達を担うドライバーまできちんと教育することで、信書の理解が更に進むと期待している」(吉田英行)